

一寸光陰不可軽

クルマを見るのも好き、乗るのも好き、仕組みを知るのも大好き…。そんな子供だったから、クルマの模型にも興味津々でした。ただし市販の「プラモデル」はどうしても好きになれませんでした。

骨組みやタイヤなどでだけ所々部品が取れなかった「残骸」のようなものが今、手元に残っています。これは、私が一から作ったクルマの模型だったか、私か、お雄(62) ④

たか 貴島

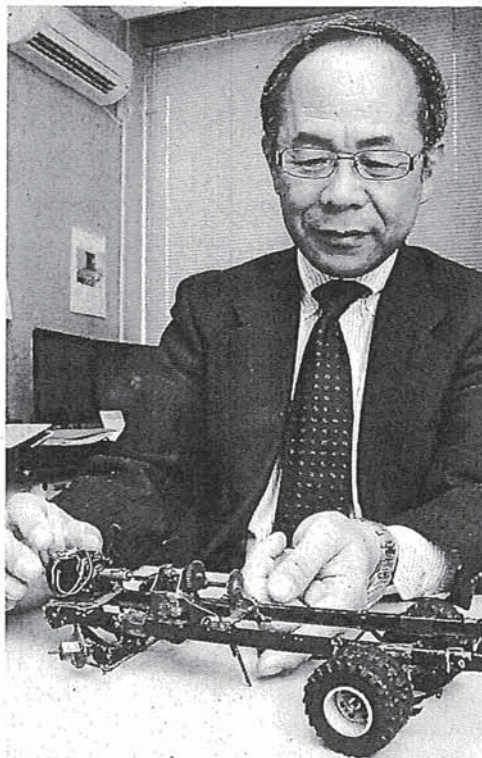
小学低学年のころは、ゴム動力のボートとか飛行機を作っていました。しかし、そのうち本物の機構を再現させた「か」と思うようになっていったんです。高学年になると、母親が自動車の図鑑を買ってくれた。それはもう食い入るよつに読み尽くしましたよ。当然、「図鑑に載っているメカニズムの、本物が見たい」という欲求は高まる一方でした。

人国記

そんなある時、家の前の道路で、トラックがタイヤをバーストさせ、シャフトが壊れて動けなくなる事故があったんです。道幅が狭かったため、トラ

ックは近くの待避場まで運ばれ、そこに1カ月近く置かれていました。これは、私にとってはまたとない「研究材料」でした。

トラックの下にもぐっては、「ここはこうなってるのか…」などと内部の構造を観察する。そして、詳しくスケッチしたりして、それを模型づくりにも反映させていました。そして、自転車のケーブルを流用し



元マツダロードスター主査

少年時代に自作したトラックの精巧な模型を手にする貴島さん

てリモートコントロールでハンドルを切れるようにしたり、父が持っている時計修理の材料をもらってサスペンションや3段のギアが入れ替わるミッションを作ったりと、一つひとつの機構に時間をじっくりかけ、懸命に知恵を絞って作り上げていったんです。さすがにエンジンだけは手作りできないので、モーターで代用しました。

そうやって完成させた最後の作品が、この模型なんです。出来上がった当時はボディもあり、立派に動いていたんです。こうした模型を、高校時代までいくつも作りましたが、現存するのはこれ1つ。マツダに入社もないころ、そんな模型があると話したところ、上司から「見せてくれ」と言われて職場へ持っていき、置いていたので、「奇跡的」に残っていたんです。模型をみせた上司や同僚から「子供のころになんとすごい物を作っていたのか」と驚かれました。

壊れたトラックで「研究」



九州・山口

産経新聞九州山口版は月ごめ購読料3000円の朝刊紙です。九州山口地域でもご自宅や会社にご配達いたします。申し込みは下記のフリーダイヤルか、専用サイトで。

ニュースのご連絡は九州総局

TEL 092(741)7088
FAX 092(726)2572
kyushu@sankei.co.jp

〒810-0004
福岡市中央区渡辺通
5-23-8
サンライトビル3階

山口支局

TEL 083(923)3333
FAX 083(923)3334
yamaguchi@sankei.co.jp

〒753-0074
山口市中央3-6-2

購読のお申し込みは
☎ 0120(34)3733
www.sankei9.com

販売のお問い合わせは
TEL 092(741)2323

広告のご用は
TEL 06(6633)9474